



ジェンダー平等の推進に係る取組状況について

本市は「SDGs 未来安心都市・明石」を掲げ、ジェンダー平等を推進し、性別などにかかわらず誰もがその個性と能力を發揮し、いきいきと活躍できる社会の実現を目指しています。つきましては、今年度の主な取組状況について報告します。

1 ジェンダー平等の推進に係る啓発

昨年4月1日の「あかしジェンダー平等の推進に関する条例」施行を受け、広くジェンダー平等についての理解を深めるために、市立全小・中・養護学校・高等学校の児童生徒に啓発パンフレットを配付するとともに、出前講座などを通じて啓発を行いました。



【パンフレット】

2 ジェンダー教育推進校の取組

幼少期からジェンダーについて学び、将来の社会におけるジェンダー平等につなげることを目的として、今年度は小学校7校、中学校2校の計9校を採択し、性の多様性や性教育、ジェンダー平等など幅広い内容に係る研修を各校あわせて34回実施するとともに、教職員の働き方改革サポートを実施しました。



【研修の様子】

3 生理用品サポート事業（きんもくせいプロジェクト）

市民の「生理の尊厳」を守る取組として、各相談窓口や関連施設での生理用品の配付に加え、全市立学校のトイレに生理用品を配備しています。今年度は、「もくせい教室（明石市適応教室）」、こども食堂など、ニーズに応じて配付窓口を拡大しました。本年1月末時点で2,528パックの生理用品を配付するとともに、60件の相談を受け、支援につなげています。

4 家事・育児参画意識向上を図るためのイベント実施

固定的な性別役割分担意識に捉われず、「お互いが協力しながら家事をするのがあたりまえ」という考え方が浸透することを目指して、子育て中の男性の家事・育児への参画をテーマとした市民参加型のイベントを実施しました。（計5回開催、参加者延べ320名（見込））

【イベントの様子】



5 男性用トイレへのサニタリーボックスの設置

性別等にかかわらず、誰もが安心して外出できるまちづくりの一環として、尿漏れパッドや大人用オムツを利用している男性などのため、男性用トイレにサニタリーボックスを設置する取組を実施しています。公共施設や市内の民間大型商業施設に加え、今年度は、サニタリーボックスの給付制度を設け、市内の小規模店舗に対象を広げているところです。小規模店舗からは本年1月末時点で11件の申請を受け、計16個のサニタリーボックス設置を支援しています。



【サニタリーボックス】

6 中小企業ジェンダー平等促進制度の運用

誰もが働きやすい職場づくりを進めるため、中小企業者が女性の働きやすさの向上などジェンダー平等につながる内容を盛り込んだ就業規則の作成や変更を行う場合に、市がそれにかかる費用の一部を助成する制度を昨年7月に設けたところです。本年1月末時点で7件の申請があり、就業規則の作成や変更が行われています。

7 「ウィメンズ・アカデミー in 明石」の実施

地域、企業、政治など様々な分野における女性リーダーを育成するためのセミナーを、2日間にわたり実施し、幅広い年代の女性16名にご参加いただきました。地域課題の解決について議論するとともに、地域で活躍されているリーダーのお話を伺い、自分の意見の伝え方やこれからのリーダー像について学ぶなど、様々なプログラムに取り組みました。



【セミナーの様子】

8 今後の予定

今後も上記の取組を継続するとともに、こどもから高齢者まで幅広い年齢層の市民、また地域、企業等を対象にして出前講座等による啓発を行うなど、さらに充実した取組を進めていきます。